函館市

資料2

もしもノートはこだて　モニタリング
○活用状況調査集計結果　R7.7.1～R8.6.30分

≪所属機関≫

所属機関種別	第2回 R7.7.1～R8.6.30分 (n=130) 事業所件数	回答人数	回答率	第1回 R5.12.1～R7.6.30分 (n=182) 事業所件数	回答人数	回答率
① 病院	24 件	13 件	10%	24 件	18 件	10%
② 診療所	147 件	12 件	9%	147 件	23 件	13%
③ 居宅介護支援事業所	94 件	37 件	28%	92 件	45 件	25%
④ 包括支援センター	10 件	24 件	18%	10 件	32 件	18%
⑤ 訪問介護	88 件	7 件	5%	88 件	4 件	2%
⑥ 訪問入浴介護	4 件	0 件	0%	4 件	0 件	0%
⑦ 訪問看護	43 件	8 件	6%	41 件	13 件	7%
⑧ 訪問リハビリテーション	16 件	0 件	0%	16 件	0 件	0%
⑨ 通所介護	86 件	2 件	2%	86 件	2 件	1%
⑩ 通所リハビリテーション	16 件	0 件	0%	16 件	0 件	0%
⑪ 短期入所生活介護	26 件	3 件	2%	27 件	3 件	2%
⑫ 短期入所療養介護	11 件	0 件	0%	11 件	0 件	0%
⑬ 特定施設入居者生活介護	11 件	1 件	1%	11 件	5 件	3%
⑭ 福祉用具貸与	22 件	1 件	1%	22 件	1 件	1%
⑮ 定期巡回・随時対応型訪問介護看護	16 件	0 件	0%	16 件	0 件	0%
⑯ 小規模多機能型居宅介護	17 件	2 件	2%	17 件	2 件	1%
⑰ 認知症対応型共同生活介護	48 件	3 件	2%	47 件	5 件	3%
⑱ 地域密着型特定施設入居者生活介護	13 件	4 件	3%	13 件	5 件	3%
⑲ 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	5 件	0 件	0%	5 件	1 件	1%
⑳ 看護小規模多機能型居宅介護	5 件	0 件	0%	4 件	0 件	0%
㉑ 介護老人福祉施設	17 件	6 件	5%	17 件	6 件	3%
㉒ 介護老人保健施設	8 件	1 件	1%	8 件	5 件	3%
㉓ 介護医療院	4 件	1 件	1%	4 件	3 件	2%
㉔ サ付・有料	84 件	3 件	2%	84 件	9 件	5%
㉕ 障がい福祉関係	116 件	2 件	2%			
合　計	931 件	130 件		810 件	182 件	
Googleフォーム回答（内数）		(66)件			(44)件	

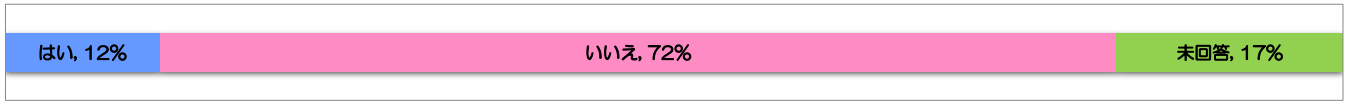
（1）『もしもノートはこだて』(以下「もしもノート」と表記)をご覧になったことがありますか。

項　目	第2回 R7.7.1～R8.6.30分 回答人数	割合	第1回 R5.12.1～R7.6.30分 回答人数	割合
① はい	102 件	78%	107 件	59%
② いいえ	22 件	17%	75 件	41%
③ 未回答	6 件	5%	0 件	0%
合　計	130 件		182 件	



（2）日常の療養支援において「もしもノート」を活用する機会はありましたか。

項　目	第2回 R7.7.1～R8.6.30分 回答人数	割合	第1回 R5.12.1～R7.6.30分 回答人数	割合
① はい	15 件	12%	19 件	18%
② いいえ	93 件	72%	88 件	82%
③ 未回答	22 件	17%	0 件	0%
合　計	130 件		107 件	



・(2)の回答の内訳

所属機関種別	第2回 R7.7.1～R8.6.30分				第1回 R5.12.1～R7.6.30分			
	はい		いいえ		はい		いいえ	
	回答人数	割合	回答人数	割合	回答人数	割合	回答人数	割合
① 病院	2 件	13%	11 件	12%	1 件	5%	11 件	13%
② 診療所	0 件	0%	10 件	11%	3 件	16%	6 件	7%
③ 居宅介護支援事業所	4 件	27%	25 件	27%	6 件	32%	27 件	31%
④ 包括支援センター	2 件	13%	20 件	22%	0 件	0%	20 件	23%
⑤ 訪問介護	0 件	0%	6 件	6%	5 件	26%	4 件	5%
⑥ 訪問入浴介護	0 件	0%	0 件	0%	0 件	0%	0 件	0%
⑦ 訪問看護	4 件	27%	2 件	2%	1 件	5%	2 件	2%
⑧ 訪問リハビリテーション	0 件	0%	1 件	1%	0 件	0%	1 件	1%
⑨ 通所介護	0 件	0%	2 件	2%	0 件	0%	0 件	0%
⑩ 通所リハビリテーション	0 件	0%	0 件	0%	0 件	0%	1 件	1%
⑪ 短期入所生活介護	0 件	0%	2 件	2%	0 件	0%	0 件	0%
⑫ 短期入所療養介護	0 件	0%	0 件	0%	0 件	0%	0 件	0%
⑬ 特定施設入居者生活介護	0 件	0%	1 件	1%	0 件	0%	2 件	2%
⑭ 福祉用具貸与	0 件	0%	0 件	0%	0 件	0%	1 件	1%
⑮ 定期巡回・随時対応型訪問介護看護	0 件	0%	0 件	0%	0 件	0%	0 件	0%
⑯ 小規模多機能型居宅介護	0 件	0%	2 件	2%	0 件	0%	0 件	0%
⑰ 認知症対応型共同生活介護	1 件	7%	1 件	1%	0 件	0%	1 件	1%
⑱ 地域密着型特定施設入居者生活介護	0 件	0%	4 件	4%	1 件	5%	2 件	2%
⑲ 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	0 件	0%	0 件	0%	0 件	0%	1 件	1%
⑳ 看護小規模多機能型居宅介護	0 件	0%	0 件	0%	0 件	0%	0 件	0%
㉑ 介護老人福祉施設	2 件	13%	3 件	3%	2 件	11%	2 件	2%
㉒ 介護老人保健施設	0 件	0%	0 件	0%	0 件	0%	3 件	3%
㉓ 介護医療院	0 件	0%	0 件	0%	0 件	0%	1 件	1%
㉔ サ付・有料	0 件	0%	1 件	1%	0 件	0%	3 件	3%
㉕ 障がい福祉関係	0 件	0%	2 件	2%				
合 計	15 件		93 件		19 件		88 件	

○活用の場面

≪病院≫

- ご家族にACPなどの概念を伝える前の参考資料として
- 終末期がんの訪問看護が始まる契約時にご家族と本人へ説明しました

≪居宅介護支援事業所≫

- ご家族から「もしも」の内容の話が出た際に活用した
- 元気な時に、普段の会話の中でも聞くようにしている
- 本人の意向を明確にしておくことで、認知機能低下時等に活用できる為
- 本人は死にたい、家族は一秒でも長く生きてほしい、の気持ちをすり合わせるように家族に紹介した

≪包括支援センター≫

- 利用者さんの今後の方向性を考えるときのツールとしてご家族と本人へお渡ししました。
- 過去に就労していた高齢者施設でのケースワーク場面で活用。自立度の高い入居者が将来への懸念を示した際に活用。家族と話し合うきっかけになった。その他、複数の入居者が関心を示し配布した経緯あり。現職に就いてからは日が浅く活用機会なし。

≪訪問看護≫

- 新規契約時、状態変化時
- 家で最期までと心に決めた時
- 利用者へACPの確認の場面で渡した
- ご家族が、今後について悩んでいる時

≪認知症対応型共同生活介護≫

- 入所者様のアセスメントに職員へ説明し、詳しい意向を知るツールとして使用したことがあります

≪老人福祉施設≫

- 入所時に、希望する医療や終末期への考えの確認時に活用
- 施設入所者様（看取り時）IC後、家族に説明を行いわかる範囲で記入した

〇活用していない理由

≪病院≫

- 活用しなくても入院時に意向確認を行っているため
- 患者（利用者）に意向を確認する機会を持てていない
- 身近にもしもノートがなかったので内容が分からなかった
- 対応したケースにおいては、面接場面等で確認作業ができたため
- 当該部署のスタッフは、活用しなくても患者、家族と意向確認ができています
- 当院の機能や特性上，既に他院でDNARの取得がなされていることが多く使用の機会がありません
- 意向確認はしている一方で、ノートに落とし込む情報まで至らず、FAXや口頭にて引継ぐことが多い
- MOPNの私のカルテを使うことが多いです。また、ツールを電子カルテにて活用することもありました。私のカルテの活用も検討したいです
- 聞き取り内容の一定の統一は必要と感じますしそのためツール活用することも必要と思いますが、ノートを用いての意向確認まで至らず他職種での関わりの中でそれぞれが聴取して完結している

≪診療所≫

- 直近でACPを行う事がなかった
- 直接対話で確認しておりました（他に１件同意見あり）
- 外来ではなかなか活用する機会がない
- まずは、包括に相談・ケアマネに繋いでいただいている為
- 活用しなくても患者（利用者）と意向確認の対話をできている等
- 患者さんに対応する中で患者さんに意向を確認する機会が持てていない

≪居宅介護支援事業所≫

- 時間を充分に持てない
- 特に必要とする機会がなかった
- 利用するタイミングがなかった（他に１件同意見あり）
- 活用しなくても意向確認を行う環境にある
- もしもノートを使わなくても確認とれたため
- 特に活用しなくても意向確認は行っている
- 利用者に意向を確認する機会を持てていない
- 活用が必要となる利用者がいなかったため
- ご本人・家族に意向を確認するような機会がなかった
- 訪問するなかでの会話により意向確認をするようにしている

≪包括支援センター≫

- 対象者に意向を確認する機会を持てていない
- 自立相談支援機関で必要とする対象がいなかった
- 患者（利用者）に意向を確認する機会を持てていない
- 要支援レベルの人にこの話題を急に出すのは違和感がある
- 利用者と意向確認の対話ができているため，活用する機会がないため
- ケースに出会っていない。サロン等での周知、話し合いの場を設けたいが、まだ機会がない
- 生活環境が大きく変わるタイミングや、周辺の環境が変わったタイミングがあればお伝えしやすい、そのような環境がなく話すタイミングが難しい

≪訪問介護≫

- 対話ができる
- 利用者様に意向を確認する機会がありませんでした
- 訪問介護の仕事で利用者に意向を確認する機会を持てていない
- 活用しなくても患者（利用者）と意向確認の対話をできている等
- 利用者様に意向を確認する機会をなかなか持てていない場合がある。サービス担当者会議等の時に、ご本人様・ご家族様がもしもの時の話を決められている方もいます

≪訪問看護≫

- 意思確認の対話をできている
- 患者（利用者）に意向を確認する機会を持てていない

≪通所介護≫

- 活用する状況にあってない
- 利用者に意向を聞く機会がもてなかった

≪短期入所生活介護≫

- これから活用したいと思います
- 看取りなど行っておらず、なかなか活用する機会がないから

≪特定施設入居者生活介護≫

- ご利用者に意向を確認する機会を持てていない

≪小規模多機能型居宅介護支援事業所≫

- 利用者に意向を確認する機会がなかった

≪認知症対応型共同生活介護≫

- 利用者さんに意向を確認する機会を持てていないため

≪地域密着型特定施設入居者生活介護≫

- 日常的に対応し、都度意向確認が出来ていた
- 活用しなくても独自のフォームで確認できている
- 活用しなくても患者（利用者）と意向確認の対話をできている等
- 認知症の方が多く入居者されており、ノートを書くときの考えと、死に直面しているときの思いに乖離が起きやすいと考えている

≪老人福祉施設≫

- 意向を確認する機会がなかった
- 利用者さんに意向を確認する機会を持てていないため

≪介護老人保健施設≫

- 利用者に意向を確認する機会を持てていない
- あらためて、意向を確認する機会を持てていない

≪放課後等デイサービス≫

- 利用は小学生がメインであり、保護者様への声がけをまだ行っていないため職員には周知している。

(3)「もしもノート」についての意見

≪病院≫

- 今後、試行的にでも利用をしていきたいと考えています
- 他の職種（臨床心理士など）にも伝えるべきかもしれません
- 施設では必ず必要な内容だと思うので、とてもいいと思います
- 今後、院内で手に取ってもらいやすい工夫など活用を検討したいと思います
- 他の医療機関での実際の活用例など事例があれば掲載などして欲しい
- もう少し文字を少なくしたら高齢の方も見やすいのではと思います
- 患者さん、利用者さんの気持ちを汲み取れるツールになることを期待したいです
- 地域のたくさんの方々の目に触れられるよう、行政を含めた関係機関で積極的な啓発活動が必要
- わかりやすく医療従事者が人生会議のことをわからない患者・家族に説明するのに活用できると思う
- 人生について思いを聞くため導入する内容としていい内容なので医療機関でも更に普及してほしい
- 患者さんにとっての良きツールとしてご案内したいと思ってはいるのですが、現場事情を考えるとなかなか浸透できずにいます
- もしもノートは元気なうちに作成しておくことが望ましいと思います、本人の希望や価値観を家族や医療・介護関係者と共有でき、希望に沿った支援に繋がると考えるからです

≪診療所≫

- 全体把握がしやすくて良いです
- 現在の多死社会において一人でも多くの人が自分が望んだ最期に近づけるように考えたり準備する時、もしもノートのような資料を活用できれば意思表示しやすいと思います。患者さんに話をしたとき、もしもノートのように選択肢から選んでいく方法だとハードルも下がり、話し合いのきっかけになりやすいと思いました

≪居宅介護支援事業所≫

- 良いものだと思います
- 機会があれば、検討したいと思います（他に１件同意見あり）
- 活用に向けて努力したいと思います（他に１件同意見あり）
- 治療方針や場所などのその時の希望が明確になりました
- なかなか聞きにくいことを網羅していて使っていけると思う
- 本人の伝えたいことや希望の発信があればとても良いツールと思う
- もしもノートがあることで、介入の機会ができてよいと思います
- もしもの時に備えて、皆で確認出来て対応出来る仕組みはとてもよいと思います
- もしもノートを活用して、これからの利用者様との関わりに生かせたいと思います
- 皆さんがもしもノートに触れる機会を作る必要があると思います。独居の方、身寄りのいない方には必須であると考えます
- 活用したいと思います。終活しているという利用者さんにもタイミングがあれば見せて聞き取りの糸口にしたいと思います
- 今後、身寄りがなく緊急連絡先がない方への支援において、本人の意向を確認・共有するために活用したいと考えています
- 居宅内で話し合ったがケアマネから話すには、正直抵抗がある。ご本人、家族の考えも変わるのではないか？確認もしづらい
- 本人は死にたい。家族は一秒でも長く生きてほしい。というケースでは本人・家族間で考えを一致させることが出来て助かった。訪看さんも先生も知っているノートなので皆で情報共有できた。
- ノートになっていてわかりやすいと思います。利用者さんは、ステップ３、４のところが難しく最後は看取りでもと思っていても自宅でできる医療行為等、点滴をするかどうか喀痰吸入するか想定が難しいと時々感じます。
- 先日の研修で改めて『もしもノート』について勉強させていただきましたので、今後の支援に活用したいです。タイミングをみながら、利用者やご家族に渡して、見てもらうのも考えを整理するひとつのきっかけになるかなと思いました。

≪地域包括支援センター≫

- 機会があったら利用してみたいと思います。（他に１件同意見あり）
- １ページ目が見づらい。説明するにしても長すぎる。
- 引き続きACPの考えが地域に浸透するような活動を期待します。
- 対象者はいませんが、出前講座等で周知はしています。終活や将来への備えは関心が高いです。
- ご家族がこのノートに感謝していました。とても良いノート（資源）です。ありがとうございました。
- 改めて、活用したいと思っている。現在元気な高齢者等を担当しているが、元気なうちにこそ記入しておいて、よく考えていて欲しい事。
- 文章が多くて読むのが大変かと思います。Googleフォームなどで作成したものを読み、回答したものが残っていくなど何か良い方法があればいいかなと思います。
- 支援対象が生活困窮者のため，支援中に「もしもノート」を活用する機会があまりありませんでした。長期的にみた際に生活が安定した後なら活用できるかもしれません。
- 人生会議について現状では知らない人が多いと思います。市の作成した「おくやみハンドブック」のようにもっとオープンに対話できるツールとして周知活動してよいと思います。

≪訪問介護≫

- 何かの時に使用させて頂きます。なかなかタイミングが今までなかったので

≪訪問看護≫

- もう少し絵本の様なデザインが追加されるといいですかね
- 全て必要な説明ではあると思いますが、内容がやや細かくて理解できるまでじっくり読むことができるかな？という気がします。余命宣告をされるずっと以前から意識して活用できると良いかと思う
- 日ごろから本人の今後の大切にしたいことや思いを聞く事は、在宅でのサービス提供期間として役割は大きい。地域全体が意識して、人生会議を行っていく波が下火にならないように継続していきたいと思います

≪短期入所生活介護≫

- 仕事で活用する機会はなかなかありませんが、自分の身内などのことを考えると参考になりました

≪認知症対応型共同生活介護≫

- 何かあってからでは確認出来ないこともあるので、事前に確認できることは良いと思います

≪地域密着型特定施設入居者生活介護≫

- わかりやすく、みやすく、施設入居前に記入しておいて貰えたら大変助かるものだと思います。
- 体に負担のかかる治療についての説明でリスクや負担についての記載が軽く見えてしまう上に高齢者には分かりづらい内容に見える。知識のある人間が補足で説明しなければならず、説明した人間に責任を丸投げしているように感じた

≪老人福祉施設≫

- 先日、もしもノート活用研修会へ参加させていただきました。今後の計画として、入居者の現状確認を行う際に【もしもノート】を活用したいと考えております。活用に向けた確認を行っていきたい。

≪介護老人福祉施設≫

- 具体的な説明でとてもわかりやすい内容だと思います。
- もしもノートを使用することで本人に対する家族の気持ちを整理できる。本人意思決定を考えるきっかけとなる。本人の今まで生きてきた思いやりや気持ちを話すことができる（家族・スタッフなど）

≪介護医療院≫

- 患者様に活用したことはないですが、自分の家族にはすすめたいと思います

≪放課後等デイサービス≫

- 誰にでも起こりうることですし、もしもノートを活用することで自分や自分の周りの人達の役に立つと思うので、タイミングを見ながら配布していこうと思います
- 対象が子供たちの事務所ですが、子供たちが各々ハンデと向き合いながら大人になり、やがて高齢になった時、この子たちだからこそより必要な会議だと思いました